

事務事業名	少年育成センター事業	事業期間	1975 ~	年度	係内番号	04
担当部署	こども部	こども課	こども係	連絡先	613	

計	政策番号	02	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実									
			基本計画②	01	こども・家庭応援計画	1101	育ちを支える場の提供と支援									
			実行計画	01	こども・家庭応援計画	1101	育ちを支える場の提供と支援									
画	予算事業名	少年育成センター事業費					会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	04
	事務事業の概要	次代を担う青少年の健全育成は社会全体の責務である。そこで、市が委嘱した少年育成委員が、非行を未然に防止するため、駅周辺・大型店・遊戯施設等を巡視し子どもたちや経営者に対して助言や指導を行うとともに、有害図書やビデオの自動販売機の排除などの環境浄化活動を行っている。														
	現状と背景	少年犯罪の低年齢化、凶悪・粗暴化の状況は解決を急がなければならない大きな社会問題であるため、地域住民・行政が一体となって青少年の健全育成事業を進める必要がある。														
	目的	受益者	市内の青少年													
L	対象	対象	少年育成委員													
	的意	図	一人ひとりの子どもが、「たくましく・やさしい・夢のある」子どもに育つ環境にする。													
	手段・方法	（どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡視活動による声かけや助言、指導</li> <li>・有害図書・ビデオの自動販売機の設置状況の監視及びコンビニ等での成人雑誌等の区分陳列の推進等による環境浄化活動の推進</li> <li>・育成センター情報の発行</li> <li>・関係機関・団体との連携</li> </ul>													
	A	N	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
1				街頭補導	巡視回数	回	実施回数（最低限維持したい実施回数 22班×5回）	110								
2				育成センター情報の発行	発行回数	回	発行回数	12								
3																
変更履歴	【1】街頭歩道 目標値 2019年度 110（最低限維持したい実施回数 22班×5回） ⇒ 2020年度 80（最低限維持したい実施回数 16班×5回）															
O	D	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
			1	注意・指導をした日数の減少（指導が必要ない青少年を増やす）	非指導日数	%	[1-（注意・指導した日数/巡回指導日数）] × 100	100								
			2													
			変更履歴													

実 施 状 況 （ D O ）	財 源 内 訳	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度			
		事	業	費	等	(a)	円	1,192,583	1,080,838	1,175,000		
		財	源	内	訳							
		国	庫	支	出	金	円					
		県	支	出	金	円						
	地	方	債	円								
	そ	の	他	特	定	財	源	円				
	一	般	財	源	円	1,192,583	1,080,838	1,175,000				
	活 動 指 標	巡 視 回 数	目	標	回	110	110	80				
			実	績	回	110	107					
			達	成	率	%	100.00	97.27	-	-	-	
		発 行 回 数	目	標	回	12	12	12				
			実	績	回	12	12					
			達	成	率	%	100.00	100.00	-	-	-	
—	目	標	—									
	実	績	—									
	達	成	率	%	-	-	-	-	-			
成 果 指 標	非 指 導 日 数	目	標	%	100	100	100					
		実	績	%	100	100						
		達	成	率	%	100.00	100.00	-	-	-		
—	目	標	—									
	実	績	—									
	達	成	率	%	-	-	-	-	-			
備 考												

事務事業名	少年育成センター事業		事業期間	1975	～	年度	係内番号	04
担当部署	こども部	こども課	こども係			連絡先	613	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） （変動） （指標） （要標） （要因） （分析）		育成委員の皆さんのご協力により、最低限必要と考えられる巡視回数を達成することができた。 また、1年間の活動の中で、非行等に対する指導は1件も報告されていない。	年度中一度も巡視しない班があったため、100%の目標達成には至らなかった。 一方で、非行等に対する指導は1件も報告されていない。		
価値	成果	抑止力としての巡視活動が計画どおりに実施され、青少年の健全育成のための環境が整えられてきている。	抑止力としての巡視活動が計画どおりに実施され、青少年の健全育成のための環境が整えられてきている。			
	課題	活動に対する市民周知が不足しているとの指摘があるため、育成センター情報の配布方法やほかのPR活動について検討が必要である。	巡視活動の中で、青少年の非行はもとより、夕方から夜間にかけて、市内に子どもたちの姿を見ることがないことから、このまま従前と同様の活動を続けてよいか検討する必要がある。			
改革	翌年度方向性	成果 現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	縮小			
改善の方向性	内容及び策	巡視活動を実施するも子どもの姿があまり見られず、育成委員の活動に対するモチベーションが保てないという課題がある。班長会において巡視方法の見直しを検討する中で今後の方向性を探っていく。 委員の高齢化により、負担を軽減させる必要もあると考えるため、近年は実施回数を毎年減少させているが、できる範囲で巡視活動を継続し、非行の抑止及び環境整備に努める必要がある。	班長会において巡視方法の見直しを検討する中で今後の活動について検討するため、元年度は5回の検討会を実施した。 可能な範囲で巡視活動を継続し、非行の抑止及び環境整備に努める必要があるが、委員の高齢化、担い手不足により、委員個人の負担を軽減させる必要もあると考えるため、委員が所属する班をまとめるなどの見直しを実施した。このことにより、報償費の減額が見込める。			

作成担当者	小坂秀輔	小坂秀輔			
最終評価責任者	五味健志	五味留美子			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			